

## 1. 法人本部

### (1) 全体統括

2021年度は、第3期中期経営計画の初年として、昨年度に引き続き次期幹部職員の育成を兼ねた会議運営、事業所運営に取り組んで参りました。感染症の拡大に伴う活動の縮小や中止などの弊害も多くありましたが、各事業部が協力し合い組織的に課題解決へ向けた試行錯誤は今後の事業発展に少なからずよい影響を与えたと感じています。

特に他法人が事業の休止や縮小を検討する中であっても、必要なサービスを提供するために積極的に対応し、ここ数年にない最高実績をあげた事業や他事業所の休業にともなってサービスが受けられなくなった方への代替サービスの提供など、職員一人ひとりがお客様に向き合うことにチャレンジすることのできた一年でした。

### (2) 基本方針に基づく運営状況

#### ①理念に基づいたトータルな人材マネジメントの実現

- ア. 人事評価制度の見直しに向けて検討を重ね、部分的な修正を加えて下半期から導入することができました。
- イ. 現行の給与規程の全面改定を行い、22年度から導入することができました。
- ウ. 昇任昇格に関する規定を同時に見直し、基準およびキャリアパスを明確にしました。
- エ. 東京老人ホームとの合同研修を下半期から再開することができました。
- オ. 次世代にむけた職員獲得へのアプローチは十分な成果が得られませんでした。

#### ②積極的な業務改善をもとにした生産性の向上

- ア. 補助金を活用し、移動式介護リフト1台を特養に導入しました。
- イ. 障害福祉分野のICT補助事業に申し込み、タブレット等の導入の一部が補助決定されました。
- ウ. 感染症対策の一環として各部における業務プロセスの評価、勤務形態の見直しなどに一部取り組むことができました。
- エ. 業務の限定化、簡素化など業務分担をすすめ、障害のある方の雇用定着に取り組みました。

#### ③事業連携のさらなる強化による組織力とサービス品質の向上

- ア. 各事業部が連携し、感染症対策下における職員派遣など協働事業に取り組みました。
- イ. 新しいサービス創出には至りませんでした。ホーム内入居者、利用者、職員の交流を目的とした「ミニるうてるフェスタ」を開催しました。
- ウ. 全体職員研修としてのスピリチュアルケア研修は当法人理事秋山 仁氏（豊中教会牧師）に「喜望の家」の働きを通じた「依存すること」についての講義を実施しました。
- エ. 一年間の事故や苦情等を分析する苦情解決委員会を2022年3月14日に行いました。
- オ. 非常時（自然災害、感染症）の事業継続計画は各部で取り組みをはじめましたが、計画の立案には至りませんでした。

#### ④健全な財務規律の獲得

- ア. 事業部ごとに目標を設定し毎月検証を行ってききましたが、事業により収益改善となったところと課題が残ったところに分かれる結果になりました。
- イ. 収益性の指標である経常増減差額率は4%となりましたが、計画に基づいた積立金の積み立てには至りませんでした。
- ウ. 電気事業者との契約を変更したことで電気代は15%程度削減できましたが、ガス、水道は前年比増となりました。
- エ. 各事業部において、所定労働時間内での業務遂行、消耗品管理や光熱水費の使用状況等について、職員一人ひとりがコスト意識をもって関わることを推進してきました。

### (3) 理事会・評議員会等

#### ①2021年度に行われました、理事会・評議員会は以下のとおりです。

- 2021年 5月26日 第1回理事会 於：大阪教会
- 2021年 6月16日 定時評議員会 於：大阪教会
- 2021年 6月16日 第2回理事会 於：大阪教会
- 2021年11月26日 第3回理事会 於：るうてるホーム

2022年 3月29日 第4回理事会 於：るうてるホーム

②評議員選任・解任委員会は、2021年5月17日に行いました。

③監事監査は、2022年3月7、8日（オンライン）、5月20日に行われました。

(4) 設備整備（10万円以上）

・ケアハウス居室水道メーター交換 1, 738千円

・移動式介護リフト 440千円

(5) 2021年度事業概要（2022年3月31日現在）

①実施事業数：16事業（うち四條畷市委託事業3）

（老人福祉法・介護保険法）

軽費老人ホーム（ケアハウス）、広域型特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、

通所介護事業、訪問介護事業、居宅介護支援事業、地域包括支援センター

（障害者総合支援法）

多機能型（生活介護・就労継続支援B型）、居宅介護等支援事業、日中一時支援事業、

短期入所事業、計画相談支援事業

（市委託事業）

配食サービス事業、シーツ包布貸与事業、外出支援移送サービス事業

②総事業費 643百万円（20年度630百万円）

③職員数 127名（うち非正規・嘱託64名）

## 2. 委員会報告

(1) 人材確保・育成委員会

①活動方針

法人の実践の積み重ねを継承・発展しサービスの向上と地域福祉の推進に積極的に取り組むため、志を同じくする人材を発掘し、また職員同士が相互に成長し合える環境を構築することを目的として活動しました。

②活動状況

2021年度は、内部研修などのプログラムの企画・実施に十分取り組むことはできませんでしたが、感染症対策下においても法人説明会や職場体験も問い合わせには柔軟に対応しました。

③人材確保についての活動内容

ア. 大学等の実習の受け入れ 6校（オンライン実習2校含む）

イ. 就職フェア等へのブース出展 計1回 来訪者 計5名

ウ. 法人説明会・見学会の開催 計2回 参加者 計3名

④人材育成についての取り組み

ア. 認知症サポーター養成講座ステップアップ研修の企画・実施 2回

イ. 法人内研修の実施サポート

(2) 危機管理委員会報告

①非常災害対策の推進

ア. 新型コロナウイルス感染症対策の一環として、館内で感染が発生した場合を想定し、食事提供のシミュレーションを実施しました。事業部を横断する課題については、それぞれが共通認識をもてるよう取り組みました。

イ. 中期経営計画に基づいたBCP（事業継続計画）の策定については、推進役を担うことができませんでした。主任クラス向けの研修については、次年度に持ち越しとなりました。

ウ. 避難訓練については、コロナ対策のため対象者を限定し、年2回実施しました。10月（昼間想定）には、避難誘導や消火訓練を行うとともに、建物外回りの避難経路について確認しました。3月（夜間想定）には宿直者、夜勤者を対象に訓練を行い、火災発生時の初動について確認しました。

エ. 一昨年度設置した非常用自家発電設備については、3/30に作動内容について情報共有を行いました。

②内部監査の実施

前年度実施を見送った内部監査については、新たな監査役を配して再開しました。法改正や過年度

の内部監査による改善事項の内容が反映されているか重点的に確認しましたが、特に問題は見られませんでした。監査を通じて事業所間の具体的な情報共有が行えたことは、大きな成果でした。

### ③安全運転に関する取り組み

- ア. 前年度に実施した運転適性検査の結果を受け、必要な運転従事者に安全運転管理者よりフォローを行いました。検査結果から車両の仕組みへの理解が共通した課題であることが分かりましたが、それに対応する講習会の実施については次年度に持ち越しとなりました。
- イ. 事故件数は4件でした（2020年度は5件）。うち1件は不注意による前方車両への追突でしたが、相手方に怪我はありませんでした。また、他3件は電柱やポール等への接触による車両への損傷でした。運転に対する外部からの指摘が1件ありました。（一時停止箇所での不停止）

## (3) 安全衛生委員会報告

### ①活動方針

施設の入居者、利用者および職員の安心、安全が保たれ、生活環境や職場環境がよりよい状態であるように健康診断の実施や、新型コロナを中心とした感染症予防対策を行いました。また、職員の安全衛生への意識を高め、知識やスキルを習得できるような研修を実施しました。活動方法としては、メンバー15名を6グループに分け、グループ毎に各事業に責任を持って行いました。

### ②定期健康診断

ア. 入居者健診 実施時期12月 受診者数 ケアハウス・特養 計96名

イ. 職員健診 実施時期9月、10月 受診者数126名 実施機関 医療法人朋愛会

ウ. 職員個別健康相談

健診結果に基づき、有所見の職員に対し、産業医の浦野医師に個別面談を実施して頂きました。23名が面談対象となり、年度内に全員面談を終了しました。

産業医との面談を踏まえて生活習慣を見直し、大幅な体調の改善が見られた職員もあり、有益なものになっています。

### ③インフルエンザ関連

ア. 予防接種実施状況 計242名（入居者、利用者、職員など）

イ. 発症状況 施設利用者や職員のインフルエンザ発症者はありませんでした。

コロナ対策の観点からのマスク着用や手洗いの徹底が大きな効果を上げています。

### ④コロナ対策

コロナ対策への取り組みは法人全体で行いましたが、必要に応じて安全衛生委員会としての対策の方針を打ち出し、事業部間の連携を図り全体での意識統一を行いました。

職員全員が努力して予防対策を徹底し、入居者や利用者、ご家族も含め、大きなクラスターになることなく、平常通りのサービスや活動が行えたのは本当に何よりのことだと実感しています。

### ⑤研修実施状況

ア. AED救急救命研修（ホーム看護師による）10名

イ. 感染症対策研修12名

予定された研修の内、必要不可欠の分のみ参加人数を絞って実施しました。

## (4) 地域交流委員会

### ①るうてるミニフェスタの開催

感染症拡大により地域との交流は難しいと判断し、ホーム内で利用者様の作品の展示や、フラワーアレンジメント、喫茶等の交わりの場を持つことができました。また、その様子をるうてるチャンネルにて放送し、参加を促しました。

### ②くるみん（「子育てサポート企業」として厚生労働大臣から認定された企業のこと）の取得

長年のテーマであった次世代育成推進法に基づく一般事業主行動計画の申請を行い、くるみんマークを取得することができました。仕事と育児の両立のできる企業として外部にアピールできるようになりました。また、2022年4月から義務化される女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画についても、取り組みをはじめました。

### ③コロナ禍における職員交流

掲示板にて職員個人の関心のある情報を発信し合い、紙面上ではありましたが、交流の機会としました。

### ④ボランティア活動の推進

感染症対策のため、継続的な活動は難しい状況でしたが、はっぴいカフェ等のボランティア活動は実施することができました。

#### (5) RO委員会

##### ①ホームページのアップデート

昨年度におこなったホームページのリニューアルにより、ホームページをみて入居申し込みや実習先をうるてるホームに希望されるケースがある等、一定の反響がありました。新コンテンツ「うるてる図鑑」では、職員のプライベートの様子を発信し、仕事とプライベートが両立できている様子を求職者に見ていただけるような工夫をしました。

##### ②SNSの活用

InstagramとTwitterを活用し、日常の様子を発信することができました。Instagramでは、フォロワーが現在では650を越え、うるてるホームを知っていただける機会として活用できています。Twitterでは「ジョージのつぶやき」として理事長が定期的に更新し、多くの方に知っていただけるよう発信してきました。

##### ③うるてるホームのキャラクター作成

文章では伝わりにくい感情の表現ができるよう、職員に向けてうるてるホームのキャラクター案募集を行いました。いくつかのアイデアが集まりましたので、キャラクター開発にむけて検討を行いました。

### 3. チャプレン報告

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」(ヨハネ福音書 15:5)

『洗足のキリスト』という目に見えるかたちで、うるてるホームの創立の精神が玄関ホールに掲げられています。イエス・キリストがそうであったようにそれは、お客さま一人ひとりのニーズに心をこめて仕えてゆくという、私たちが創設時(1965年)から大切にしてきたミッションスピリットです。

2021年度は、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症パンデミックという厳しい状況の中で、感染防止のために手探りしながら注意深く歩むことになった一年でした。うるてるホームがここまで守られてきたことを心より神さまに感謝すると共に、職員の尽力をととても誇りに思うものです。

#### (1)「礼拝(God's Service)」中心の働き

##### ①主日礼拝(忍ヶ丘集会)

2019年までは毎週日曜日午後2時半より、日本福音ルーテル教会(JELC)関西地区や地域の牧師先生たちの協力を得ながら、3Fの多目的ホールで30名ほどの参加者を得て礼拝を行ってきました。しかし、2020年3月以降は、新型コロナウイルス感染症拡大のため礼拝が休止となることの多かった二年間でした。

2021年度は、52回の日曜日のうち礼拝を行うことができたのは22回だけでした(休止が30回。ちなみに2020年度は休止が28回でした)。通常通り3Fで礼拝を行うことができたのは12月5日からの4回だけとなります。残りの18回は2Fで参加者をケアハウスの入居者に限定して実施されました。その代わりに、毎週日曜日午前10時半からのJELC大阪教会のYouTubeでのライブ中継を館内での「うるてるネットワーク」で配信しました。20名ほどの方がオンラインでの礼拝に参加されているでしょうか。大阪教会の礼拝週報と説教要旨も希望者には毎週配布しています。

諸先生方にはいろいろとご迷惑やご心配をおかけしたと思いますが、柔軟に対処してくださったお働きに心から感謝すると共に、牧師を派遣してくださった諸教会にも感謝いたします。

##### ②毎朝の礼拝

「聖書日課」を用いての「毎朝9時からの礼拝」も、主日礼拝と同じく休止が多かった一年でした。ユニットによっては有志による自主的な祈りの時を持っているところもあります。

##### ③葬儀・告別式

2021年度は、チャプレンとしては①M・U氏(92歳)、②Y・T氏(99歳)③M・A氏(100歳)、④M・T氏(101歳)、⑤M・A氏(86歳)の5名の方々のご葬儀に関わらせていただきました。このうちのM・U氏は亡くなる三日前にチャプレンからご自宅で洗礼を受けられました。

##### ④聖書研究会

原則として月2回水曜日に、天王寺教会牧師とチャプレンが交代で聖書研究を行うことになってい

ましたが、こちらも感染症対策のため休止の多かった一年となりました。

#### ⑤ 召天者記念礼拝

召天者記念礼拝は 2021 年 11 月 10 日に参加者をスタッフのみに限定し、館内「るうてるネットワーク」を通して配信しました。そのため、昨年に引き続き今年もご遺族をお招きすることは適いませんでした。

### (2) その他の働き

#### ① 牧師懇談会

2021 年度も昨年度同様に、牧師懇談会を行うことはできませんでした。

#### ② リラ・プレカリア（祈りのたて琴）

リラ・プレカリアのご奉仕も感染症対策のため休止となりました。

#### ③ 上智大学グリーンケア研究所の受講生 2 名による一年間の通年実習

2021 年度の特筆すべき事柄としては、6 月より 2 月までの間オンライン(Zoom)を用いて、上智大学グリーンケア研究所の資格認定コースの受講生 2 名によるスピリチュアルケア実習が行われたことでした（各 100 時間。対象はケアハウスの入居者）。これは初めての試みでした。緊張の中に始まりましたが終わってみると、実習生からも実習に関わってくださった入居者の方々よりも、そしてグリーンケア研究所からも、よい評価をいただいています。

#### ④ 職員との関わり

毎年 4 月に大阪教会で行われていた新入職員祝福式は、該当者がなかったため行われませんでした。10 月には当法人理事による「釜ヶ崎活動」についての講演とワークショップを職員のためのスピリチュアルケア研修として行うことができました。

#### ⑤ 『信徒の友 2022 年 2 月号』（日本基督教団出版局）の「チャプレン特集号」

ホームでのチャプレンの働きについて執筆したものが、2022 年 1 月に発行されました。

## 4. ケアハウスるうてる

### (1) 運営状況

2021 年度の退居者 8 名（特養 7 名、グループホーム 1 名）。新入居者は 9 名でした。ケアハウスから特養に入居される方が多い昨今ですが、今年度は特養の短期入所利用中にケアハウスに契約をされて入居となった方が 1 名おられました。特養とケアハウスの取り組みとして開始した定期的な合同会議によって短期入所や特養入居がスムーズに利用できました。同じ建物の中に住んでいながら特養の生活に抵抗のある方や、利用に対して消極的な方もおられます。介護度が高くなり生活全般に見守りや介護が必要になればケアハウスでの生活が困難となります。夜間の介護も適切に行い安心した生活を支える特養の特徴を本人やご家族に伝えていくことが大切であると感じています。

4 月以降 97 日間の緊急事態宣言により例年に比べて見学者の受け入れが難しい状況でした。入居相談や見学者は年間 35 名と前年度よりも減少しましたが、電話による入居相談や問い合わせには細やかな説明を行いました。特に入居中の方からご友人や知人に施設のご紹介をいただいたことにより、申込者の獲得ができましたことは嬉しいことでした。

11 月には各事業所の協力と地域交流委員会の計画により、「るうてるミニフェスタ」が開催され、個人や複数で作成した作品を数多く展示することができました。「アレンジメントの花」を生けて楽しむコーナーは参加者のほぼ全員楽しむことができました。2 年ぶりの行事で特養の方々も職員と合同の作品作りができたようです。2 日間をかけて開催したことで密にならず、ゆったりと参加できたことも良かったと思います。

今年度も昨年に引き続き職員や入居の皆様にご感染が無く穏やかに一年を過ごすことができたことが何よりの喜びでした。これからも「ウイズコロナ」の生活は継続されていくと思いますが、「新しい生活」を創造していくことの大切さを感じています。

### (2) 事業実績

#### ① 利用状況

	2021 年度	2020 年度	差異
利用者数（延べ）	18,000 人	18,250 人	▲250 人
入院日数（延べ）	427 日	386 日	41 日

短期入所利用日数	212日	133日	79日
稼働率／対実員	96%	97%	

②入居者の現状（2022年3月31日現在）

	60-69歳	70-79歳	80-89歳	90-99歳	100歳以上	計
男性	1	3	3	2	0	9
女性	0	5	24	12	0	41

③介護度状況（2022年3月31日現在）

	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男性	2	0	1	0	0	0	0	3
女性	6	5	7	7	2	1	1	29

④介護保険利用状況（単位：人）

	2021年度	2020年度	差異
訪問介護	240	227	13
訪問リハビリ	51	53	▲2
通所介護	227	218	9
福祉用具レンタル	231	216	15
訪問看護	0	4	▲4
短期入所	19	13	6
介護タクシー	0	0	0
計	768	731	37

## 5. 特別養護老人ホームるうてるホーム

### （1）運営状況

2021年度はチームとして成果をだすこと、チームワークの強化を大きなテーマとして掲げましたが、上半期の入院日数の増加が主な原因となり、特養の稼働率は移転後3番目に低い数字となりました。年間退居者も移転後最多の20名となりました。退居者の増加は入院が長期化し医療的なケアが必要不可欠になったこと、体調悪化により看取りとしてホームに帰って来られた利用者の増加が大きな原因です。しかし、上半期の時点で課題について早急に対策を講じ、研修の受講、チームケアの取り組み、医療機関との連携を意識し、下半期には上半期の入院日数を半分以下にすることができ、チームとしての成果を挙げることができました。その結果、特養事業部全体では短期入所と合わせた稼働率が移転後過去最高になりました。

また、コロナ過においても徹底した感染対策を講じ入居者においてはお一人も感染者を出すことはありませんでした。

### （2）事業実績

	目標	2021年度	2020年度	目標との差異
のべ利用者数	17,338人	16,950人	17,227人	▲388
稼働率	95.0%	92.9%	94.4%	▲2.1%
平均介護度	—	3.9	3.9	—

※年間入院日数 1225日（上半期877日、下半期348日）目標500日

※年間空室数 75日（殆どが退居者の残留物引取期間のもの）目標50日

※新規入居者数22名、退去者数20名

利用者の現況（2022年3月31日現在）カッコ内は2020年度

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	0(0)	2(4)	3(1)	6(2)	0(0)	11(7)
女	0(0)	6(6)	15(10)	17(19)	1(8)	39(43)

最高齢：男96歳 女104歳 平均年齢：男87.4歳 女87.6歳 カッコ内は2020年度

利用年数	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年～	計
男	8(3)	2(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	11(7)

女	14 (10)	18 (21)	2 (8)	2 (2)	2 (1)	1 (1)	39 (43)
---	---------	---------	-------	-------	-------	-------	---------

## 6. るうてるホーム短期入所生活介護事業所

### (1) 運営状況

2021年度は年間を通じて20床フル稼働を目標に、チームとして成果をだすこと、チームワークの強化を大きなテーマとして掲げました。全国では新型コロナウイルス感染症の拡大により軒並み短期入所事業の経営状況が悪化している中、しっかりとした感染対策の上で年間を通じてフル稼働を実現しました。また、1月には稼働率90%を達成し、年間実績としても移転後最高となる稼働率を挙げることができました。これは、利用者のニーズに応え満足してもらえるよう取り組んだ結果です。

職員に関しては人員配置基準を満たしているものの、十分とは言えない人材リソースの中で一人ひとりがチームワークの強化を目指してお互いをフォローし合い、ひとりの退職者も出ませんでした。また、長期利用の受け入れを増やし、ケアマネジャーだけでなく各関係機関との密な連携により受け入れのスピードを上げていくことで特養の危機的状況をしっかりとフォローすることもできました。

### (2) 事業実績

	目標	2021年度	2020年度	目標との差異
のべ利用者数	高齢 4,015人	4,267人	3,594人	252人
	障害 1,460人	1,506人	1,280人	46人
稼働率	高齢 55.0%	58.5%	49.2%	3.5%
	障害 20.0%	20.6%	17.5%	3.1%
		15,695千円	13,998千円	

※1日当たりの平均利用15.8人(高齢11.7名、障害4.1名)でした。

※1か月を超えて利用された方は、高齢27名、障害2名でした。また、緊急利用はのべ16名でした。

※年間利用実人員数は、高齢84名(男30、女54)、障害27名(男12、女15)でした。

※新規利用者は高齢44名、障害6名でした。

## 7. デイサービスセンターるうてる

### (1) 運営状況

特定の曜日に特色を出し、要支援、自立度の高い利用者を集め、プログラムの開発を行いました。高度なプログラムを開発し、チーム参加方式をとり、会話のキャッチボールを楽しみながら、人との交流の機会を持つことが出来ました。この取り組みにより、事業所のウリを作ることができ、営業をおこなったところケアマネジャーからの問い合わせが多く、体験利用者の獲得につながりました。昨年比体験利用1.4倍、新規利用者1.5倍となりました。

新型コロナウイルス感染症の陽性者発生による影響としては、8月には3日間休業をしましたが、利用ニーズがある方については、入浴や通常時間の利用者をお受けすることができました。3月には、職員定期PCR検査にて、陽性者が複数ありましたが、休業せずサービス提供をおこなうことができました。

実績では稼働率80.3%と目標は達成することはできませんでしたが、昨年度より2.8%増年間のべ301人利用者を増やすことが出来ました。様々な経験を積み次年度につながるものとなりました。

個別機能訓練加算は看護師の人員不足により進めることができませんでした。

### (2) 事業実績

	目標	2021年	2020年	目標との差異
のべ利用者数	9,827人	8,766人	8,465人	▲1,061人
稼働率(対定員)	90.0%	80.3%	77.5%	▲9.7%
体験利用者数	—	56人	40人	—
新規利用者数	—	47人	31人	—
新規利用者比率	—	83.9%	77.5%	—

## 8. ジョイフルるうてる

### (1) 運営状況

生活介護では、日常の中で、それぞれにできることをご自分でしていただくことが習慣的な取り組みとなってきています。この取り組みによって、利用者から利用者へ行動が波及し、それぞれの持ち味を生かし定着化しています。このことから、全体的に一定の理解がなされ、自分でやりたいことを選んで実施できるようになっています。

実績では、8月、9月には稼働率75%と、新型コロナウイルス感染者の発生や、緊急事態宣言発出による利用控え等がありましたが、後半には新規利用者の獲得ができ、2月には稼働率100%とすることができました。(新規利用者7名昨年比1.75倍)

就労継続支援B型では、長年の課題であった工賃のもととなる評価項目の変更をおこないました。支援をするうえで大切にしていることや特色の確認をおこない、方向性の共通理解を進める機会となりました。就労継続支援B型のコンセプトの立案はできませんでしたが、評価項目の見直しにより基礎を築くことができました。実績では、9月に稼働率80.5%と目標を達成することができました。また、利用者が職員に掴みかかるケースがあり、包括的暴力防止プログラムの学びを進めました。

全体では、コンセプト「皆が気持ち良く過ごせる場所」「あなたと私で一緒につくるジョイフル」から、事業所として大切にしていることを明確にし、利用開始時の説明や、様々なケースの判断基準として、活用することができました。

### (2) 事業実績

生活介護	目標	2021年度	2020年度	目標との差異
延べ利用者数	3,406人	2,806人	2,829人	▲600人
定員稼働率	110%	90.6%	91.4%	▲19.4%

就労継続支援B	目標	2021年度	2020年度	目標との差異
延べ利用者数	2,064人	1,944人	1,904人	▲120人
定員稼働率	80%	75.3%	74.1%	▲4.7%

## 9. 四條畷第1地域包括支援センター

### (1) 運営状況

「住民の持つ力の証明—理解・分解・再構築—」を地域支援のキーワードとして、地域共生社会の実現に向けて取り組みました。その一環として、地域の障害者支援団体から相談を受け、新型コロナウイルス感染症をテーマに出前講座を行うことができました。また、ICTを活用した新たな居場所の土壌づくりや安全な運動の機会の企画提案を通じて、リハビリ専門職との協働や参加者が主体的に取り組む姿を見ることができました。

総合事業においては、リハビリ専門職同行訪問事業の活用により、身体の自立に対するアセスメント力向上と地域のケアマネジャーとの自立の考え方の共有を図りました。さらに、新しい取り組みとしてオンラインを活用した教室開催を行うことができました。

### (2) 事業実績

#### ①包括的支援事業

##### ア. 総合相談支援事業 (のべ件数)

	2021年度	2020年度
総合相談業務	530件	807件

##### イ. 権利擁護事業 (のべ人数)

	2021年度	2020年度
権利擁護に関する相談	13人	40人
高齢者虐待に関する相談	7人	8人

##### ウ. 包括的継続的マネジメント業務 (のべ人数)

	2021年度	2020年度
介護支援専門員支援に関する相談	15人	16人
研修会	6回	5回

ネットワーク会議	54回	46回
----------	-----	-----

エ. 地域ケア会議

	2021年度	2020年度
個別地域ケア会議	6回	5回
圏域地域ケア会議	9回	20回
自立支援型地域ケア会議	2回	1回

②指定介護予防支援・第1号介護予防支援事業（介護予防ケアマネジメント）に係る事業

ア. 2021年度実績

	介護予防支援	介護予防ケアマネジメント
ケアプラン作成数	1,571件	781件
うち委託件数	1,228件	550件
うち自事業所作成件数	343件	231件

イ. 昨年度との比較及び目標との差異

	目標	2021年度	2020年度	目標との差異
ケアプラン作成数	2,400件	2,352件	2,535件	▲48件
うち委託件数	1,884件	1,778件	2,008件	▲106件
うち自事業所作成件数	516件	574件	527件	58件

③介護予防事業

ア. 介護予防普及啓発事業 介護予防教室・介護予防に関する講演会（ ）は参加人数

	2021年度	2020年度
開催回数（参加人数）	8回(133人)	7回(75人)

イ. 地域介護予防活動支援事業（ ）は参加人数

	2021年度	2020年度
通いの場開催 直接的支援	6回(12人)	8回(15人)
通いの場への専門職派遣	5回(88人)	0回(0人)
ボランティア活動支援等	9回(34人)	23回(89人)

④その他の事業（任意事業）

ア. 家族介護支援事業（ ）は参加人数

	2021年度	2020年度
家族介護教室	3回(22人)	0回(0人)
介護者家族交流会 開催支援	0回(0人)	5回(11人)

イ. 認知症高齢者見守り事業（ ）は参加人数

	2021年度	2020年度
認知症に関する教室・講演会	2回 24(人)	2回(81人)
認知症サポーター養成講座（一般）	1回(8人)	4回(65人)
認知症サポーター養成講座（ジュニア）	0回(0人)	1回(120人)
認知症サポーターステップアップ講座	1回(9人)	1回(10人)

## 10. ケアプランセンターるうてる

### (1) 運営状況

職員の入退職や休職などにより特に下半期は職員体制が安定しませんでした。職員一丸となって地域のニーズに対応すべく奮闘しました。事業実績は次項のとおりですが、事業所を運営していくうえで(主任)介護支援専門員の確保および人材育成は喫緊の課題であることを強く再認識しました。

事業計画に位置づけた「ケアマネジメントの質的向上」については、制度改正を受け、書類整備や研修受講に重点を置いてすすめました。オンラインについては研修などで積極的に活用し、館内のICT環境や機器の特性を理解することができました。事例検討会については計画を変更し2ヶ月に1回としましたが、下半期は職員体制の影響により十分実施することができませんでした。書類の相互点検

については半期ごとに行うとともに担当引き継ぎのタイミングでも実施し、書類の補正に努めました。担当件数増や人員減による業務増も影響し、書類整備は引き続き課題となりました。

「総合相談機能の拡充」については、社会貢献事業の一環として、障害や生活保護など幅広い制度を踏まえて相談対応を行うよう努めました。また、障害理解促進のため、法人職員を対象に外部研修の調整や他法人の見学をすすめました。下半期は職員の休職により障害児者への相談対応を所内職員や関係機関と連携しながら行いましたが、相談支援専門員1名という人員体制の課題が浮き彫りとなりました。

「人材確保・育成のための取り組み」については、介護支援専門員の資格取得を目指す職員を発掘すべく働きかけを始めることができました。また、四條畷学園のオンライン実習（老年看護学実習）に対応し、専門職として実践や価値を発信することができました。職員一人ひとりが人材育成を自分事として認識し、実習生の受入れや新職員への関わりを始めることができました。

年度初めより主任が実績会議や法人内プロジェクトへ参加するようになりましたが、そのことを通じて他事業所の状況を理解するよう努めました。

## (2) 事業実績

### ①介護保険 居宅介護支援・介護予防支援

	目標	2021年度	2020年度	目標との差異
介護ケアプラン数	1,704件	1,356件	1,388件	▲348件
介護予防ケアプラン受託数	480件	270件	421件	▲210件
一人あたり請求件数/月 ※1	39.0件	37.2件	34.3件	▲1.8件
一人あたり支援件数/月 ※2	—	40.6件	38.8件	—

※1…一人あたり請求件数=(要介護ケアプラン数+介護予防ケアプラン÷2)÷(常勤換算値)/月

※2…一人あたり支援件数=(要介護ケアプラン数+介護予防ケアプラン)÷(常勤換算値)/月

### ②障害者総合支援 計画相談支援

	目標	2021年度	2020年度	目標との差異
プラン数	373件	279件	317件	▲94件
請求件数	90件	63件	76件	▲27件

## 1.1. ヘルパーステーションるうてる

### (1) 運営状況

2021年度は事業継続のための環境整備の一環として、現行の管理者業務の整理、分担をすすめるとともに、デイサービスや特養など法人内事業所との協働に努め、「多機能型」運営のあり方を模索しました。デイサービスのコロナ休業時に協働してケアハウス入居者に入浴対応を行えたのは、法人内プロジェクトや実績会議への参加を通じて、他事業所への理解が深まったことも要因だと認識しています。

また、「新規利用者を断らない」姿勢を堅持する中で、地域ニーズに対応するため、サービス提供地域を四條畷市外（介護保険：寝屋川市明和町、障害：大東市北新町）へ拡大するとともに、市内の居宅介護支援事業所を訪問してフットケアや近隣への複数回訪問などの事業所PRを行い、顔の見える関係づくりに努めました。有償サービスにおいては、介護保険が適用されない通院介助や嗜好品の買物同行、見守り訪問等の対応を行いました。

「サービスの質向上」については、サービス提供責任者の対応力向上を目指しました。とりわけ、事故や苦情が発生した際には、サービス提供責任者が速やかに訪問し、事情を確認した上で、今後の対応について所内で検討しました。また、ケアマネジャーと綿密な情報共有を行うとともに、他法人の場合は実績報告時などに対面でコミュニケーションをとり、サービス拡充などの提案を行うことができました。看取りケアについては、他機関との連携やサポートの方法などを学び話し合うことはできませんでしたが、ケアについてご家族から感謝の言葉をいただくことができ、ヘルパーの充実感につながりました。フットケアの研究はすすみませんでした。足を観察する行為は継続しました。

「人材確保・育成のための取り組み」については、少人数でのモニタリング会議や回覧による情報共有などを通じて、ヘルパーのモチベーションを維持できるよう工夫しました。また、地域の福祉人材確保の一環として生活援助サービス従事者研修へ出向き、求人活動を行いました。さらに、四條畷学園看護学部のオンライン実習に参加し、専門職としての価値を伝えることができました。

## (2) 事業実績

### ①介護保険

	目標	2021年度	2020年度	目標との差異
利用者数(月ごとのべ人数)	720人	627人	595人	▲93人
のべ訪問回数	6,480回	6,208回	5,650回	▲272回

### ②障害者総合支援

	目標	2021年度	2020年度	目標との差異
利用者数(月ごとのべ人数)	84人	73人	57人	▲63人
のべ訪問回数	1,220回	1,289回	954回	69回

## 12. 栄養課

### (1) 運営状況

2021年度も、入居者や利用者にとって生活の潤いや楽しみの一つとして満足いただけるお食事の提供と、安心・安全をベースに、一人ひとりに合わせた栄養ケアを検討し、「食べること」で健康維持を実現できるようサービス提供に努めました。コロナ禍によりこの一年間も大きな影響を受けましたが、その中で今できること必要なことを検討し、工夫しながら試みたこともあり、新たな業務の進め方や今後の課題なども発見することができました。

災害対策については、昨年度にマニュアル化の実現を実施したので、実践での訓練を行いました。実地での訓練により、この面でも課題が見えたので引き続き改善に努めます。

食事提供時の事故については、異物混入や提供ミスもあり、再度気を引き締めて業務を行う必要があります。

### (2) 事業実績

事業所		上半期	下半期	2021年度	2020年度合計	2019年度合計
ケア	実食数	22,771	23,607	46,378	46,623	45,431
特養 短期	実食数	29,086	30,319	59,405	58,113	55,352
	経管	2,674	3,287	5,961	7,065	4,926
デイ	食数	4,076	4,462	8,538	8,362	9,039
障害	食数	1,735	1,791	3,526	3,753	4,123
配食	食数	216	367	583	318	306

## 13. 事務課

### (1) 運営状況

昨年度は「経営基盤の向上」を取り組むべき課題の一番に挙げましたが、実現できませんでした。そこで、2021年度も引き続き「経営基盤の立て直し」を最重要課題として、改善に向け努力致しました。結果として、全事業部が成果を残せたとはいえないまでも、全体として向上の兆しが感じられるようになりました。

今年度から始まった事業部運営会議などで事業部間の垣根を越えた意見交換が行われたことも触発材料となり、利用者獲得に至った事業部もあります。そのような取り組みを共有することにより、これまで突破口を模索していた事業部への大きなヒントになったと考えます。

業務においては、年間を通して感染防止対策の実施が必要でしたが、社会情勢に合わせてルーティン業務を見極めての取り組みを日常化するようになりました。

法人全体に関わる業務を担う唯一の事業部として俯瞰的な視点を大切にしながら事業部への後方支援や職員の支えになるよう努めました。

### (2) 事業実績

#### ①収入状況

(単位：千円)

	予算	決算	予算対比 (%)	2020年度	2019年度
介護保険	370,141	366,290	99	358,699	339,499

利用料	146,862	149,362	101	143,228	137,765
診療報酬	4,870	4,912	108	4,453	4,722
自立支援	70,266	69,449	99	64,975	68,867
補助金・委託料	46,067	43,631	99	53,346	46,964
その他	9,660	10,079	104	6,056	5,750
合計	645,866	643,723	99	630,756	607,374

## ②支出状況

### ア. 総合支出

(単位：千円)

	予算	決算	予算対比 (%)	2020年度	2019年度
人件費	420,926	417,437	99	412,099	427,010
事務費	58,426	55,547	95	57,384	56,400
事業費	83,539	78,981	94	79,903	73,360
借入金返済	51,312	51,312	100	51,312	51,312
返済利息	8,905	8,905	100	9,323	9,742
その他	6,261	5,243	99	8,500	29,360
合計	629,369	618,425	98	618,521	637,442

## 14. 四條畷市委託事業

### (1) 運営状況

配食サービスについては、2021年度をもって高齢、障害ともに委託事業が廃止されることになりました。事業廃止が前提ではあるものの、ニーズがある方についての対応は変わらず実施しました。

最終的に3名の利用者は、一定の試行期間を設けた上で民間サービスへ移行あるいは本人希望によりサービスを終了しました。リネンサービスは1名が継続利用でした。外出支援移送サービスは今年度も利用がありませんでした。

また、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）事業については、受託し3年が経過しました。地域における支え合いの見える化、居場所づくりに向けたサロン講座企画、認知症支援に関心がある住民との協働を活動の柱として取り組みました。また、役割や活動を考察する一環として、地域包括支援センター内にて毎月勉強会を行いました。年間の活動を通じて、生活支援コーディネーターの役割を明確化するとともに、第2層協議体（地域の支え合いを推進する協議体）が今後自律的に活動していくための基盤づくりを行うことができました。

### (2) 事業実績

#### ① 配食サービス

	2021年度	2020年度	前年との差異
のべ利用者数	14人	24人	▲10人
配食数	150食	282食	▲132食

#### ② リネンサービス

	2021年度	2020年度	前年との差異
のべ対象者数	12人	12人	—
のべ枚数	104枚	100枚	4枚

#### ③ 外出支援移送サービス

	2021年度	2020年度	前年との差異
利用実人員	0人	0人	—
延べ利用者数	0人	0人	—

#### ④ 生活支援コーディネーター

	2021年度	2020年度
生活支援協議体関連	30回	30回
地域活動	27回	27回

各種研修	8回	8回
各種会議等	5回	5回